

「共に生きよう」

画家

曾根 豊のメッセージ

かつて、綾部の地に一人の画家がいた。
画家の体は、首から下が完全にマヒしていたので、
口に絵筆をくわえ一筆・一筆、渾身の力を込めて筆を運ぶのだった。
母・家族そして多くの人の愛を一身に受けて描いた彼の絵は、
どこか暖かみに溢れ、澄み切った色に覆われている。



(1981年頃の豊さん 42歳)

＜プロフィール＞

- 1948年 京都府綾部市で曾根優二、きみの四男として生まれる。
- 1965年 綾部高校体操部新人戦の試合中、鉄棒競技で頭から落下し、手足の自由を失う。
- 1969年 激励を続けてくれる友人に、何とか年賀状の返事を書きたいと、口に筆をくわえ「あけましておめでとう」の文字を初めて書く。文字が書けるなら、絵も描けるかもしれないと、描き始める。
- 1982年 京都市内の嵯峨美術短期大学ボランティアグループ「たけのこ」の援助で、同大学学園祭で初の個展を開く（以後毎年開催）。
- 1986年 5月に浜松市で個展開催。7月には綾部市の綾部商工センターで個展を開く。3日間でのべ3,000人が来場。
- 1994年 画集「いつか大地に立ってやる」が発刊される。
- 1998年 東京、神戸で個展を開催。
- 2001年 5月10日逝去。最後の自宅療養中には念願であった自宅での個展を開催。見庸行さんに「僕だけこんなに幸せで良かったんかなあ」と、ずっと話していたという。家族、多くの友人、知人、そして命の燃える限り描き続けた多くの作品に見守られての安らかな最期となった。

会期 5月3日（金）～5月14日（火）

会場 ギャラリーカフェ日々